

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

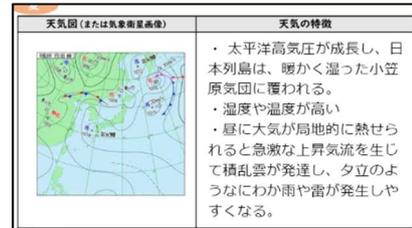
学校名	浅口市立寄島中学校	実践者名	宮原 稚世
教科等	理科	学年	第2学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力		
単元・内容等	大気の動きと日本の四季 天気図の学習を通して、日本の四季の気団や前線が規則的に変化することについて気づかせる。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	タブレットの活用について、前向きで検索能力や内容を要約することが得意な生徒が多い。		

活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する

前線や・気団について事前に学習をして、日本の四季と結びつける学習内容である。大気の動きや風の向きについて、タブレットにまとめたので、発展的な学習として日本の四季の気候について、タブレットを用いた展開を取り入れた。

授業の展開

- (1) 前時の振り返り
- (2) 春・梅雨・夏・秋・冬の気候について、班で役割分担をして調べさせる。
- (3) グループで、各季節についてまとめ・発表をさせる。(スクールタクト)
- (4) 授業の振り返り。



実践者の手ごたえ

発展的な内容を生徒主体での学習で展開してみた。
班での発表など、スクールタクトでまとめて、分かりやすく発表することができている生徒が多く見られた。
理科の学習が苦手な生徒も、友人と協力して学習に取り組むことができた。

児童生徒の振り返りや反応等

生徒の感想
「天気図や気団について、まとめることで、しっかりと理解できた。」
「気圧配置のことについて分かりやくまとめられた。」